



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月9日

上場会社名 株式会社アカツキ 上場取引所 東
 コード番号 3932 URL https://aktsk.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 香田 哲朗
 問合せ先責任者 (役職名) CFO (氏名) 米島 慶一 TEL 03 (5422) 7757
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	5,213	1.8	448	△50.2	381	△57.2	190	△66.4
2022年3月期第1四半期	5,120	△23.4	900	△55.0	891	△54.0	566	△56.1

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 300百万円 (△47.2%) 2022年3月期第1四半期 568百万円 (△56.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	14.09	13.66
2022年3月期第1四半期	40.92	39.61

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	51,641	37,967	73.4
2022年3月期	46,079	38,236	82.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 37,923百万円 2022年3月期 38,209百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	40.00	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2. 2023年3月期の期末配当につきましては、現時点で業績予想が困難であることから未定としております。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

当社グループは、ゲーム事業の短期的な事業環境が激しく変化する不確定要素が多いことに加え、コミック事業についても積極的に挑戦していく方針であり、適正かつ合理的な数値の算出が非常に困難であります。そのため、今後につきましては、四半期毎の決算や事業の概況の適時な開示に努めることにより、通期の業績予想については開示しない方針とさせていただきます。詳細につきましては、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	14,098,100株	2022年3月期	14,098,100株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	592,591株	2022年3月期	580,564株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	13,512,483株	2022年3月期1Q	13,852,795株

- (注) 1. 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式(2023年3月期1Q:92,005株、2022年3月期80,005株)を、自己株式に含めて記載しております。
2. 株式給付信託(J-ESOP)により信託口が保有する当社株式(2023年3月期1Q:85,126株、2022年3月期1Q:79,014株)を期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料における予測値及び将来の見通しに関する記述・言明は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社の四半期決算補足説明資料は決算発表後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要があります。

そのような状況の中、当社グループが属するゲーム業界を取り巻く環境につきましては、2022年の世界のビデオゲーム消費支出は前年比5.4%増の2,031億ドルと予測されておりますが、その中でも最も大きな割合を占めているモバイルゲームにつきましては前年比5.0%増の1,035億ドルの市場規模へ成長することが見込まれており（出典：Newzoo「Global Games Market Forecast」）、引続きグローバルで成長し続ける業界であると考えられております。

また、当第1四半期連結累計期間において当社グループが新規参入したコミック事業を取り巻く環境につきましては、国内の2021年コミック市場全体で前年比10.3%増の6,759億円と過去最高を更新しております。その中でも電子コミック市場は前年コロナ過の自粛生活で拡大した新規ユーザーがそのまま定着している他、「縦スクロールコミック」の台頭でマンガを読んでこなかった新たなユーザーを掘り起こしている結果、前年比20.3%の4,114億円と大きく成長しております。さらに、当社グループが提供を始めた縦読みフルカラーコミック「ウェブトゥーン」の世界市場は、2027年に約2兆円規模にまで成長すると予想されております（出典：QYR Research）。

このような環境の中、当社グループは今後、さらなる成長を加速させるため、責任と権限を一体化して事業を運営するベンチャーグループを目指し、ゲーム事業とコミック事業の分社化及びDawn Capital 1号投資事業有限責任組合の組成等を進めてまいりました。また、当社グループの主力事業であるゲーム事業に関する既存タイトルの堅実な運用の他、新規開発タイトルへの積極的な投資を進め、コミック事業では2022年6月に縦読みフルカラーコミックアプリ「HykeComic」を正式にリリースしております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高5,213百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益448百万円（同50.2%減）、経常利益381百万円（同57.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益190百万円（同66.4%減）となっております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社グループは、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントを「ゲーム事業」、「コミック事業」の2つの報告セグメントと、「その他」の3区分のセグメントに変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成することは実務上困難なため、前年同期比情報については開示を行っておりません。

(ゲーム事業)

当社グループのゲーム事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は見受けられず、より高いクオリティとユーザー体験にこだわり、タイトルを厳選して開発・運用していく方針の下、既存タイトルの堅実な運用と新規タイトルの開発に努めてまいりました。主力タイトルである株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの協業タイトル「ドラゴンボールZ ドッカンバトル」につきましては、5年ぶりに新ストーリーを追加しユーザーの活性化を図った他、海外版の対応言語も拡大させ6言語に対応させるなど、長期目線での運用を継続してまいりました。また、株式会社スクウェア・エニックスとの協業タイトル「ロマンシング サガ リ・ユニバース」では、国内版3.5周年イベントや海外版2周年イベントを開催するなど、コアファンを惹きつける長期目線での安定運営を継続してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高5,146百万円、セグメント利益851百万円となっております。

(コミック事業)

当社グループのコミック事業につきましては、2021年より準備を進めていたサービスである縦読みフルカラーコミックアプリ「HykeComic」を2022年6月に正式リリースしております。当該アプリでの取扱い作品数の増加に邁進する他、オリジナルコンテンツへの注力による差別化を図るべく、積極的な投資を進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高1百万円、セグメント損失189百万円となっております。

(その他)

当社グループのその他事業はIP事業等が含まれており、当第1四半期連結累計期間においては、売上高65百万円、セグメント損失75百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて5,562百万円増加し51,641百万円となりました。主な要因として、借入による資金調達を実施したことに伴う現金及び預金の増加5,763百万円、その他流動資産の増加1,374百万円及び投資有価証券の増加667百万円があった一方で、売掛金及び契約資産の回収等による減少2,197百万円によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べて5,831百万円増加し13,674百万円となりました。主な要因として、新規発行に伴う社債の増加2,000百万円（1年内償還予定の社債を含む）及び長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加3,991百万円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて269百万円減少し37,967百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上190百万円があった一方で、剰余金の配当543百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、ゲーム事業の短期的な事業環境が激しく変化する不確定要素が多いことに加え、コミック事業についても積極的に挑戦していく方針であり、適正かつ合理的な数値の算出が非常に困難であるため、2023年3月期の業績見通しにつきましては開示しない方針とさせていただきます。

なお、業績見通しが適正かつ合理的に算出できる状況になりましたら、適時に開示する方針でございます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,724	31,488
売掛金及び契約資産	5,371	3,174
その他	1,759	3,134
流動資産合計	32,856	37,796
固定資産		
有形固定資産	753	734
無形固定資産		
その他	78	5
無形固定資産合計	78	5
投資その他の資産		
投資有価証券	11,098	11,766
その他	1,316	1,362
貸倒引当金	△24	△24
投資その他の資産合計	12,390	13,105
固定資産合計	13,223	13,845
資産合計	46,079	51,641
負債の部		
流動負債		
買掛金	985	762
1年内償還予定の社債	—	1,000
1年内返済予定の長期借入金	8	—
未払法人税等	757	494
賞与引当金	249	—
株式給付引当金	194	151
その他	1,371	2,010
流動負債合計	3,567	4,418
固定負債		
社債	2,000	3,000
長期借入金	2,200	6,200
その他	75	55
固定負債合計	4,275	9,255
負債合計	7,842	13,674
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	2,772	2,772
利益剰余金	34,499	34,140
自己株式	△2,061	△2,097
株主資本合計	37,984	37,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137	175
為替換算調整勘定	86	158
その他の包括利益累計額合計	224	334
新株予約権	27	27
非支配株主持分	—	15
純資産合計	38,236	37,967
負債純資産合計	46,079	51,641

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	5,120	5,213
売上原価	2,602	2,855
売上総利益	2,517	2,357
販売費及び一般管理費	1,616	1,908
営業利益	900	448
営業外収益		
受取利息	6	5
助成金収入	13	—
為替差益	—	161
その他	6	6
営業外収益合計	26	173
営業外費用		
支払利息	3	8
社債発行費	—	25
為替差損	2	—
投資事業組合運用損	24	28
暗号資産評価損	—	178
その他	4	0
営業外費用合計	35	240
経常利益	891	381
特別利益		
事業譲渡益	—	159
投資有価証券売却益	—	19
特別利益合計	—	179
特別損失		
投資有価証券評価損	59	—
減損損失	—	63
特別損失合計	59	63
税金等調整前四半期純利益	832	498
法人税等	265	308
四半期純利益	566	189
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	566	190

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	566	189
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	38
為替換算調整勘定	7	71
その他の包括利益合計	1	110
四半期包括利益	568	300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	568	300
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、時価算定会計基準適用指針の適用による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。